

(令和2年12月試験研究業務月報)

試験研究課題：定置網漁業におけるクロマグロ小型魚の漁獲抑制に対応した改良網の開発

研 究

## 定置網におけるクロマグロの保護と漁業の両立

近年、国際合意に基づく厳しい漁獲量制限が設定されているクロマグロを保護し、その他の有用魚種を漁獲するため、当センターでは一昨年から「のれん網」の開発に取り組んでいます。「のれん網」とは、定置網の魚捕部（最終的に魚を取り上げる部位）の手前に設置する1枚の網で、クロマグロが網に近づかない習性を利用して魚捕部の手前で止めて保護し、他の魚種はのれん網の網目や側部、下部を通過させて魚捕部まで到達させ、漁獲する仕組みです。

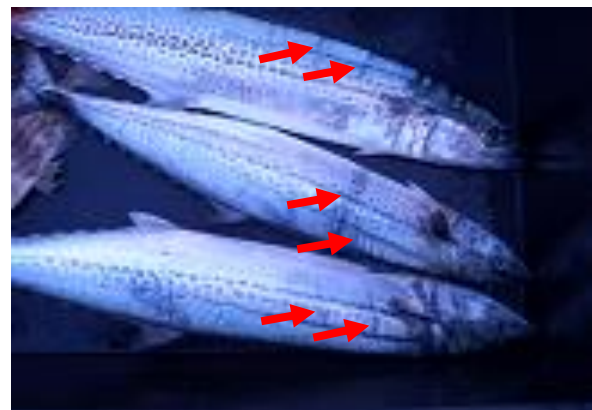
昨年までの結果では、概ねクロマグロのみを選別し保護することができましたが、サワラを主体とした数種の魚の一部がのれん網の網目に刺さり、商品価値が著しく低下することが分かりました。

そこで今年は、12月8～11日にかけて、サワラが刺さらないようにのれん網の網目の大きさを従来の6cm角から7.5cm角に拡大したところ、網目に刺さったサワラの数従来約1/3に減らすことができました。

本調査は今年度で終了しますが、今後も京都府の漁業の発展に寄与するため、様々な調査・研究に取り組んでいきます。



のれん網を設置した定置網での操業風景



のれん網の網目に刺さったサワラ  
(黒い筋(矢印)が刺さった痕)